

令和6年度 第1回いなべ市行政改革推進委員会 会議録

会議名	令和6年度 第1回いなべ市行政改革推進委員会
開催日時	令和7年1月31日(金) 14:00~16:15
開催場所	いなべ市役所行政棟2階 庁議室
出席者	<p>【委員】7名 ※敬称略 丸山康人(会長)、林伸一、佐々木文昭、伊藤章子、岡本孝文、近藤雄司、岡正光</p> <p>【事務局】26名 日沖靖(市長)、山下正史(副市長)、小川専哉(教育長)、出口和典(企画部長)、近藤栄人(総務部長)、大川洋海(都市整備部長)、伊藤ひろ(市民部長)、岩田長司(環境部長)、岡真水(福祉部長)、出口美紀(健康子ども部長)、若松辰彦(農林商工部長)、太田東洋(建設部長)、寺本靖彦(水道部長)、伊藤功(教育部長)、三好宏尚(会計管理者)、中村政紀(監査委員事務局長)、岡武史(企画部次長兼財政課長)、伊藤真次(財政課長補佐)、多湖篤人(職員課長)、辻貴久子(職員課長補佐)、小谷直仁(政策課長)、児玉吏(政策課)、堀田彰宏(政策課)、西尾みずき(政策課)、小林直樹(株)ジャパンインターナショナル総合研究所)</p> <p>欠席：市川久春(議会事務局長)</p>
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 会長の互選について 4 諮問書の交付 5 会長あいさつ 6 いなべ市行政改革推進委員の紹介 7 説明事項 (1)行政改革の推進について 簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律のあらまし (2)第3次いなべ市行政改革大綱の位置づけについて…資料1 (3)第3次いなべ市行政改革大綱策定スケジュールについて…資料2 8 審議事項 第2次いなべ市行政改革大綱(第3次集中改革プランを含む。)の検証と総括…資料3 9 次回の会議について 10 閉会
配布資料	<p>資料1…第3次総合計画基本構想の構成案</p> <p>資料2…第3次いなべ市行政改革大綱の策定及び行政改革の推進に係るスケジュール</p> <p>資料3…第2次いなべ市行政改革大綱に対する検証結果</p> <p>参考資料1…第1次いなべ市行政改革大綱に対する検証結果</p> <p>参考資料2…令和5年度いなべ市の決算状況</p>
公開、非公開の別	公開
議事概要	

1 開会

2 市長あいさつ

- ・皆様には行政改革推進委員をお引き受けをいただき、心より感謝を申し上げたいと思います。なかなか行政は、無駄とわかっていても切るに切れない部分がありますので、皆様の客観的な立場からこれはおかしいだろうというのをご指摘いただければありがたいなと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

3 会長の互選について

会長に丸山康人委員が選任される

4 諮問書の交付

市長から会長へ諮問書を交付

5 会長あいさつ

- ・会長を務めさせていただきます丸山と申します。総合計画も答申させていただきました。実は、行政改革も合併以来携わってきました。総合計画は夢を追える部分があるのですが、行政改革は各部署の方に来ていただいて厳しいことも言わなければならない。市民の皆様から集めたお金をいかに効率良く支出していくかが重要となっています。ただ切ればいいというわけでもなく、未来のあるところに配分していけるかが仕事です。その辺りを委員の皆様のお力をお借りしながら進めていきたいと思ひます。いなべ市の力になれば良いと思ひます。よろしくお願ひします。
- ・本日は、行政改革について委員の皆様もなかなか耳慣れない言葉が非常にたくさんあるかと思ひますので、意見をいただくというよりも、どういう方向で進めていくかをご理解いただく機会にしたいと思ひます。

6 いなべ市行政改革推進委員の紹介

各委員及び事務局の自己紹介

7 説明事項

(1) 行政改革の推進について

- ・行政改革や簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律のあらましについて企画部長から説明。

(2) 第3次いなべ市行政改革大綱の位置づけについて…資料1

- ・第3次いなべ市行政改革大綱の位置づけについて政策課長から説明。

(3) 第3次いなべ市行政改革大綱策定スケジュールについて…資料2

- ・第3次いなべ市行政改革大綱策定スケジュールについて政策課長から説明。

8 審議事項

第2次いなべ市行政改革大綱（第3次集中改革プランを含む。）の検証と総括…資料3

- ・参考資料1 第1次いなべ市行政改革大綱に対する検証結果及び参考資料2 令和5年度いなべ市の決算状況を使用し、政策課長から15ページまで説明。
- ・16ページから最終ページまで、各項目の「総括」と「今後の課題及び方向性」について担当部門長

から説明。

【丸山会長】

- ・今回、大綱策定及び行政改革の推進の審議は、通常1年かかるところを総合計画に包含するという
ことで、かなり短期間でまとめなければいけません。大綱策定が終わると、来年度本格的に議論し
ていく形になります。重要なことは、ここに行政職員の皆さんが来ていただいています、やはり
職員の皆さんがやる気にならないと始められないので、自覚していただくようお願いしたいです。
指定管理者、民間委託などをすると業務の効率化につながったような気になりますが、実はかえっ
て、民間に渡したがゆえに目が届かなくなり、支出だけが続いているケースが結構あつたりします。
民間委託イコール行政改革ではない。行政がやるべき仕事の要否をチェックする必要があります。
高齢化の進行により、税金もあまり入ってこなくなる。地域社会を維持していくためには、行政に
依存しない形で市民が参加しながら整理する必要があります。
- ・それでは、本日理解できなかった部分や意見を聞いておきたい部分、これから進めていくに当たり
調べておいてほしい、資料を用意してほしいことを要望していただいて構いませんが、いかがでし
ょうか。

【委員】

- ・今日説明いただいた第2次の検証結果について、参考資料として第1次の結果も配られています。
第2次の検証結果では基本全部文字で書かれているんですが、第1次は数字や具体的にこのような
ことを行いましたと書かれていて、書き方が全然違っているのですが、一緒のものなのか、違う段
階のものなのかお聞きしたいです。

【政策課長】

- ・第1次は丸山会長にもお世話になり、一体化の醸成ということでかなり無駄の削減がありました。
すべての補助金が、四町それぞれで統一感がなく、従って定量的な形で数値目標を立てました。第
2次ではいなべブランドの確立ということで、定量ではなく定性的な形で行ってました。
平成25年度で終わるはずだった合併特例債が5年延長されたことで投資がなされ、令和2年になっ
てコロナが始まり、給付金46億円に加えて、地方創生交付金で地方の活性化ということで、削減と
いうよりは国の流れに乗って事業を進めてきたという背景があります。第1次と第2次ではそのよ
うな違いがあります。書き方が違いますが同じものです。

【丸山会長】

- ・少し補足をすると、合併当初は四町でやり方にかなり違いがありました。そのため、それを合わせ
ることが中心でした。大きな市と小さな町が合併したのとは違って、同じような町が1つになった
ということで、第1次はかなり一体感もあって行政改革の効果があつた。合併をしたこと、震災が
あつたこと、それからコロナがあつたことで、国の負担はすごいけれど、市はかなりの補助金がも
らえた。合併しなかった小さな自治体も財政が潤ってしまった。これからは補助金も少なくなって
しまうので、トーンも変わってきてしまう。第1次と第2次の違いはそういうところにあつたと
いう解釈ですね。前任の財政課長のご意見はいかがでしょう。

【財政課長】

- ・先ほども説明がありましたとおり、第1次は一体化の醸成、第2次はいなべブランドの確立という
ことで、いなべ市が誇れる行政サービスを冊子にまとめて公表もさせていただいていますので、次回
配布させていただいて、こんな形で行政サービスの向上に取り組んできたということをお示しでき
たらと思います。

【委員】

- ・違いについて説明いただいたのですが、表現の仕方がかなり変わっていて、第2次は文字だけになってしまっていてどのくらいの効果があったのか分かりにくいのではないかと思います。第1次は表などがあって分かりやすく見えました。取組実績についても、項目によっては同じ文章が書かれていて非常に分かりづらかったというのが正直な感想です。第3次では、そのあたりも見直していただければと思います。

【政策課長】

- ・第2次では国の流れに沿って事業を進めてきたところが大きく、行政改革推進委員会を開催せずにきました。そのため、第3次では、第2次でやれなかった部分を課題として挙げて、委員会で継続して進捗管理を行っていきけるよう見直していきたいと思います。

【丸山会長】

- ・第3次では、第2次の見直しを行いながら総合計画の中で新たに組み込んでいこうということですね。他に何かご意見ありますか。

【委員】

- ・今後議論していく中で認識しておきたいのですが、基本的には、やはり財政が今までよりは厳しくなっていくというニュアンスで考えた方が良いでしょう。基金が今114億円。これがいなべ市として多いのか、適正なのか。そのあたりをどういう方向で考えていったらいいのでしょうか。

【政策課長】

- ・石破内閣で地方創生が2倍になるという話もありますが、一方で、今回財政状況をお示ししたとおり、人口減少が急速に進んでいる中で、扶助費というのがまだまだ2030年、2040年と上がっていく状況の中、行政改革の方向性としては、厳しめに見ていかないとというのが政策的な考えです。過去、合併当初の予算編成においては、財政調整基金残高よりも予算不足額の方が大きかったこともあり、特に平成21年度から平成25年度にかけて、財政調整基金を積み立てて基金残高を確保してきた経緯があります。令和7年度予算編成時においては、予算不足額がここ数年になく高い状況であったこと等からすると、過去の経緯からしても基金残高の推移は常に留意する必要があります。しかし、その一方で国の施策や動向に沿った事業展開も必要と思います。

【丸山会長】

- ・一般論だけれど、高齢化が進めば扶助費も増えていく。負担が非常に大きくなる中で、税収の確保も交付税の圧縮もあるだろうから、自治体の運営も非常に厳しくなるだろうと予測されます。他に何かご意見ありますか。

【委員】

- ・決められた財源で、選択と集中というのがかなり迫られてると思いました。各部各課のやりたいことを少しずつその中でこれをやりましょうと決めるものなのか、横並びで並べた中でもうこの部の提案はできないからやらないといった覚悟を持ってやる中身なのかというのを決めてから、やっていかないといけないのかなと聞いてて思いました。そういうスタンスで取り組むということが良いのでしょうか。

【政策課長】

- ・大綱策定に当たり、まず現状と課題を洗い出してその中で何を削減していかないといけないのか、効率化を図らないといけないのかを考え、大綱とつながる課題を3項目ほど掲げます。その3項目の審議と同時に、集中改革プランの25項目にありましたように、もう一度全庁的に取り組んでいく施策を定め、それを総合計画に含め、毎年進捗管理を行いながら行政改革を推進したいと思っています。

【丸山会長】

- ・ある自治体では、一つ一つの事業を委員会に諮って削減するかのチェックをしているところもあるが、その度にかかなりの量の資料を読み込まなければいけないし、普段お仕事を持っていたいでいるわけだから、それは不可能に近いです。ここでは、事務局の方で課題と削減方法について各部署と調整して内容を示すという形で行うというわけですね。

【委員】

- ・部と課が違うけれど、一緒にすれば良いのと思うこともあったのでお聞きしました。

【丸山会長】

- ・国の補助メニューの関係で類似はしているけれど、分けておく方が都合が良い場合もあるので、ご指摘ただいてその辺りも担当部局から理由を説明してもらえれば良いと思います。

9 次回の会議について

【企画部長】

- ・次回の会議は令和7年2月27日木曜日の午後2時から、こちらの会場で開催します。お忙しいなかと存じますがよろしくお願いします。

10 閉会

【企画部長】

- ・本日の委員会の資料と会議録については、後日、市のホームページで公表させていただきます。本日はご多用のなか貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第1回いなべ市行政改革推進委員会を閉会します。どうもありがとうございました。